

参考資料

長良隕石の外観写真（国立極地研究所提供（岸山浩之氏撮影）。画面右下の黒いキューブが1センチ角。



国内で発見された鉄隕石のリスト（国立科学博物館のデータによる）

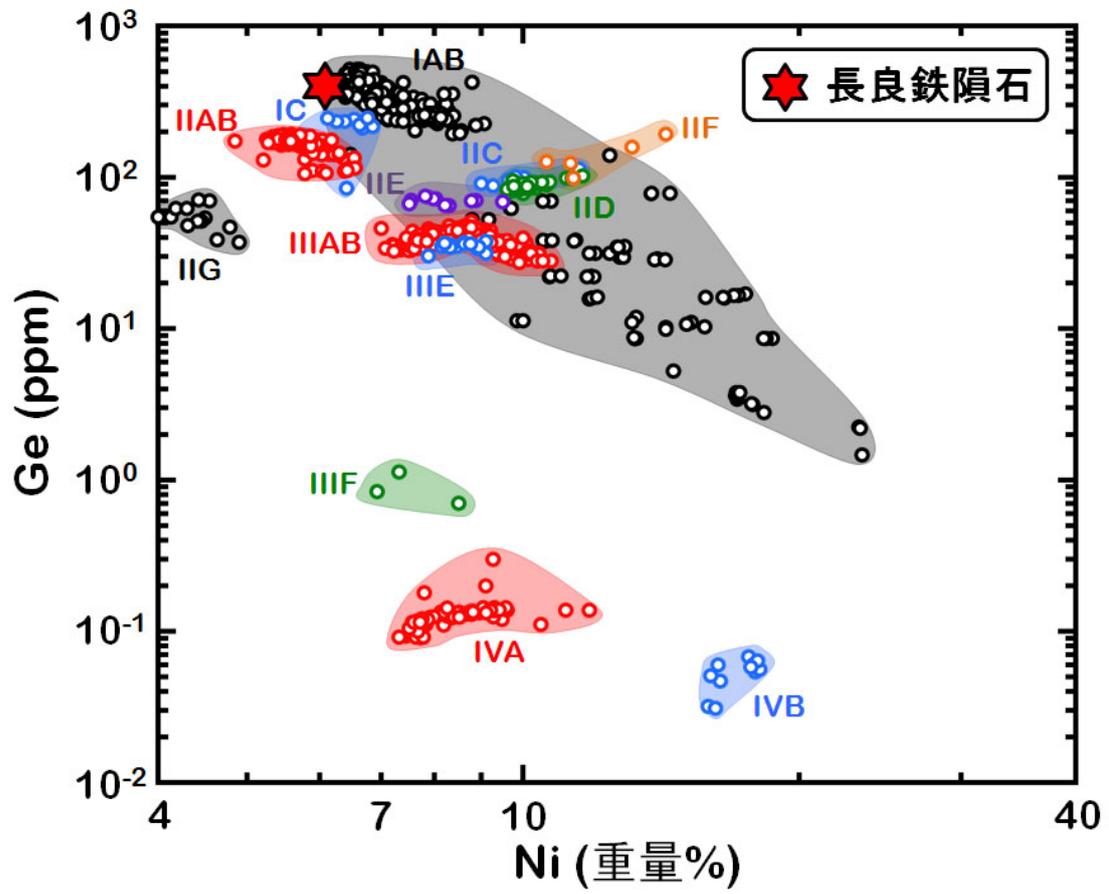
隕石名		落下場所	年月日	落下／発見	分類	総重量 (kg)	コメント
福江	Fukue	長崎県五島市	1849年1月	落下	オクタヘドライト	0.008 (8g)	
田上	Tanakami	滋賀県大津市	1885年	発見	III E	174	
白萩	Shirahagi	富山県中新川郡上市町	1890年	発見	IV A	33.61	
岡野	Okano	兵庫県篠山市	1904年4月7日	落下	II A	4.74	

天童	Tendo	山形県 天童市	1910 年ごろ	発見	IIIA	10.1	
坂内	Sakauchi	岐阜県 揖斐郡 坂内村	1913 年	発見	ヘキサヘドラ イト(?)	4.18	行方不明 (レプリ カ(京 大))
駒込	Komagome	東京都 文京区 本駒込	1926 年4月 18日	落下	鉄隕石	0.238	行方不明 島(1965)
玖珂	Kuga	山口県 岩国市	1938 年	発見	IIB	5.6	

岐阜県で発見された隕石リスト (国立科学博物館のデータによる)

美濃 (岐阜)	Mino (Gifu)	岐阜市、美 濃市、関市	1909年7月 24日	L6コン ドライト	脇水 (1911)
羽島	Hashima	羽島市	1910年	H4コン ドライト	星野ほか (1990)
坂内	Sakauchi	坂内村	1913年	鉄隕石	
笠松	Kasamatsu	笠松町	1938年3月 31日	Hコンド ライト	正村 (1938)

Ni と Ge の含有量による鉄隕石の分類図



用語

[1] IAB グループ・・・化学組成の違いなどに基づいて 13 のグループに分類されている鉄隕石の分類群の 1 つ。化学組成と金属組織にばらつきが大きい、ほとんどのものはニッケル含有量が 10 重量%以下である。アメリカ・アリゾナで発見されたキャニオン・ダイアブロ隕石、アメリカ・テキサスで発見されたオデッサ隕石、アルゼンチンで発見されたカンポ・デル・シエロ隕石などの有名な隕石がこの分類群に含まれる。

[2] ヘキサヘドライト・・・鉄隕石の中で、ニッケル含有量が 5.8%以下のもの。カマサイトのみからなる。

[3] 離溶組織・・・高温では一相で安定だった鉱物が、温度が下がることで二相以上に分離した組織のこと。鉄ニッケル合金でも起こり、低温ではニッケルに乏しいカマサイトとニッケルに富むテーナイトに分離し、ウィドマンシュテッテン構造を作る。

[4] ウィノーナイト (winonaite)・・・金属鉄を多く含む石質隕石で、アリゾナで発見されたウィーノ隕石を代表とする希な分類群。鉄隕石中にケイ酸塩物質を含む IAB グループ鉄隕石と化学的に近縁であると考えられ、同一の母天体に由来したのではないかといわれている。

[5] カマサイト・・・隕石に含まれる鉱物の一種。鉄ニッケル合金で、鉄の含有量は 90.1～95.5 重量%。比重は約 8 で、六方晶系または等軸晶系。

[6] テーナイト・・・隕石に含まれる鉱物の一種。カマサイトと同じ鉄ニッケル合金だが、ニッケルに富む。

[7] シュライバーサイト・・・隕石に含まれる鉱物の一種。鉄とニッケルを主体とするリン化合物。

[8] オクタヘドライト・・・鉄隕石の中で、ニッケル含有量が 6～20 重量%のもので、カマサイトとテーナイトで構成され、ウィドマンシュテッテン構造[9]を示すもの。

[9] ウィドマンシュテッテン構造・・・オクタヘドライトに分類される鉄隕石が示す金属組織。カマサイトとテーナイトの帯状組織（ラメラ状とも呼ばれる）を示す。